



採荷集本四編
全



叙

吾師 蕺公 寂空 摩居士 海内より

輾ころころとてりや 發句とて燕石 瓊

たよりりりりし 其崑崙と采れりりる

玉を聯句既探 荷の編なりを考の

ありし去るやの 転所 實所 易く

りの後の 吟ハ 四世 完事 ありあり



谷をりけりり色え是を帳秘と
あをゆんハ陽春白雪の調浅衆
さしきよのほさくんの僻事
たのめりたふと 囊菴ありき
三島ひまき 梓くちりそめけり
生を 駿遠つり百く遊ては春の
むかひ 如くことよのむかひをたふ

しらあ芥子く如きり四編の集者
こいありけり 諸四世の評賞を
そめく 絶て亦く探荷の号我題し
以後滑稽酒吐て盡りるめく
四方の瓊瑤をあるめし なるかき
亡あや跡をきくは 比編のむむ
こと後かのみ 雪江亭 星衣古地なる

居しをりし

天明戊申一孟夏

天明丁未 雪中庵蓼太判



探荷集四編

星衣著

六印

腹のこころ花子多秋盛計 東武 普成

一室のこころ 島田 惻乃静心 治吏

探荷春之部

あつらぬもめでとー君より始

後府

周我

丑之や太刀佩き待初馬

出列給ふ書

止絵

先思やふ知分物ぬ浦も字

上才迎田

星衣

先善梅より先河り屠蕪備

春翠

月うらみ柳見初る三日の春

下才佐原

波江

梅分の梅や薫る山白ふ文 蘭女

香よとくする雨戸も梅の夜海歌

兒明

聖屋後や小松の布巾いさり梅

善成

鶯よ目為舟乃みりり外

京花

鶯よ長宗紀女海男滝外

後田中

如園

うらみやくらま通いもくも人

全

臥猪

鶯や紅園いまの灯々け

一路

字名花高かさくか小彌高く都外

奥白川

深畊

鶯やかたなへをの月日星

上才ヨシタ

文牛

鶯よよく宿く梅乃月夜外

志頑

嘗に菓も其のゆくも繁也 かつり

そのまふりからぬ玉も柳か 青橋

籠もささきは柳静なり 岷月

松より西柳乃まよふなりも鬼 曙鳥

浦人や所漕成初も小臈月 錦城子

いづちの臈の君も橋は月 東巴

流はよ切東声やたほり月 花足

福引やあふりへ根道草 吏楓

福成や馬ゆきかて菓二俵 寸心

猫のまつきも臈乃内結引 錦城子

志る魚やのり産も美しき 起翠

思ふ人のまよ橋ゆもあ菓引 松成

人の思ふ皆な中もあ吹らん 其獨

道り哭人もあ里人あ草壁 沙鶴

うらけり麦喰ふ雨の籠子外 むすし 其牛

画はゆさる是もさくらひ籠る籠子 左列表 其主

小倉原より九手も風日るか 嗽石

色之ぬ月を出さ松乃石 小田原 器文

ふゆふゆり松まけしや古事 奥目 樂我

其馬や城より太鼓の静一人 如馬

春西や濡くさむじは盾 駿田中 山月

まき舟二粒之粒流るる 蓼源

春の香くさ蓮菜よ移り 諸府 泉布

春は雪やふり之結乃雛草 高田 路花

まき乃雪やまきも場乃傳子危 高田 沾吏

まき人しし消るる流るる 星夜

松ふ小八人をも誘ふ加藤 高田 車谷

流るる中も中めり色 一 流

猶くくやこころくまのまきくさ

作者不明

葉苗やをり子秋のまほ好

卯毛

山吹やゆり臨の水を極さし

曲肱

糸よらる妻の別や 風巾 萬府子

風起は糸ユク里いの原 雪窓

上原も果をまほり風 亀二

雪解く立人ともる松 小景 素兄

あまの如上人の原やまの原 信州松 松成

焼野うら又事よをる兎外 太初

嬰兒の白鳥い川に白冬 柳絮子

うらう原や橋柱乃花結葉の中 全

さるう原江鈴着板やむ燕 萬府子

陽火や思数とゆる小町塚 何や足

海棠やま妃、後見中 楚 栢

春の月も藤の危誠車小田原の如 葵

春此日以南園堂よりをり川 其 桂

落し角佛乃多き都うが 太 初

物午や白梅も樹く此正一位 星 夜

と起息や酒乃後紙掛の月世 むしり 一 巢

乙鳥に鳥引出れ門田か南 全 其 牛

とこれいも皆あなう人 雛の君 全 耳 谷

詠の月も生れ離 三日 雲 聖

送子よすれ日とあ人 帆 夢 月 夢

神は文よ人しとええぬまの事 蘭 女

二海入る池乃朽葉や啼蛙 駿府 月 取

古郷をさるも志はん 由る雁 島田 橘 叟

卯孕やもあもあ人 帰る鷹 大川 匹 明

落し角や紀乃園中、刀々 奥白川 二 鳴

立羽うゝ眠しる物乃まき道後府 桔泉

あゝぬいそ人の焚之汐子桔 錦城子

楓折々柱女乃昔を渡松 徐生

何ハまや佛よあゝま甘甘井 得魚

是程此楓のあゝ一一家 雨静

菽入やまきますく唐綿 白林

古代やふひきれと帆を松 仙雲

雨やうゝあゝうゝ核も尾甚高 得魚

暮山くや三月堂の夕楓 全

注文乃柳よ咲糸をうゝ玄杏

子の顔水電又そや江戸楓 百花

月とまの残しと楓教束分上甘今居 南斗

尖もまや屋上やうゝぬ小田京 和水

さゝらも相愈の地や京の山を列来 蓼主

岩もまや醉か吹く櫻人信列扱 花足

味唯清とふくくさるり横綱 一貫

花咲や花と知るぬ 乃子 麻 得魚

花散るゆりもよ危庵のま 浪花 賀道

風流ハく歌をアたり 花ま 得魚

知る人よ遠ぬ都の花ん引 淵澄

仰向よ病る下りるを 花後 玄都

花飛やふれぬかきと 花形 竜ヶ寄 止絃

花之乃を此夜と思へ花盛 星夜

春の不二花もとらへる 歌麿之 歌麿 身鳴

春乃花三月の日の任り 二兆

朽残るる居よ花此かア危 むさし 蒼梧

名残あまやま此水原に杜若 小田原 器文

川まや流るる花の色 信列松代 花足

りふるる春と知るや仕立物 玄都

行喜をゆく 白玉や菘椿 雪登

かくまふまは節おき 女外 松代 花足

夏部

沿鏡ハ水ノミヨルハ文衣

栖蛙

灌佛ヤ秋草イヤル裸む

得魚

灌仙ヤ乞ウミ世々の濡ほ

を列家 蓼主

梅檀乃ニ草花亦多ヤ仙生會

欠川 四明

小葉古神ノミヨルハ

蓼阿

葉様ニ誰公侍人花一枚

雨靜

心より家々七世火つり用ひ

雪壁

登人々々々々々々々々々々々

栖群

夜風一々々々々々々々々々々

月守

山徑乃甲斐ハ花ノ子現

蓼阿

兼カア人々々々々々々々々

蓼二

ほくさ守ると正り針峠

後板 雲井

葉ささむ女矣さり不ぬ

曲眩

空うけを皆飛る人時鳥

玄杏

夜嵐の瓦暗く人なくきた

普成

河多妻姑形係外山くさ

亀二

懶語ぬすよあけり蜀魂

洗身

子奴梨妻又人ませりり

冠羅

花鳥を月よかへは空杜宇

東寺

不ううま次榻結漁首志川め亮

琴助

稲妻や少くはまると時鳥

暮二

ほととぎす次時中忽す日艸

白麻

花よ鳥又よあけよ松魚止

笑山

羽之泊も鳥籠光るや夏の海

竹苞

強くくよ君々葉やま川籠

其桂

外より魚形一羽籠夕の目

蓼助

あこころよ切きくは危杜若

星夜

原中や井の堀難此杜若 得魚
深色を能く扱ふは杜若 雨吟
生贄をいつたことあやかき^{上井} 菴枝
投りて来りし鱈よき^{後州岸} 浴梅
杜若料理とあとのいふ^川 一貫
行灯とる紙出とるま^川 葛人
かき^川とる切り鱈の^川 二駱

うしろ見る家の^川 白麻
筆や益す^川 帰る琴^川 全
寺藏^川と大入道の故を^川 全
ま^川と^川歳月^川と^川素子^川が^川 去^川 船
祭る日や^川初^川と^川ま^川詰^川け^川端^川 曲^川 眩
櫓や燈もその神代^川 一貫
凡紅糸のつきて^川花^川晒^川か^川 星^川 夜

男氣の夢給せし晒る 葵二

神植の志袖盃盤根籍たり 亜柳

吸きぬ濡よ志をぬ花袖引 木奴

苔乃る瓦万斗草此糸くか 不騫子

山陰や酒旗一たれき 全

細魚の似くくち筋子の一夜漬 錦城子

石女の齒音かきくち筋子漬 白麻

義家く悲ひ刀や懈の垢 沙羅

帝帳の燈足ハ他人を飯傭子 得魚

鉤於る盃片しき紙帳掛 白麻

中垣の懈のいへんの伏屋外 玉卮

日課くるる家字文やせり懈 蘭女

大名や懈の中も團むら 白麻

釣阿多き水も打るき故帳か柳絮子

おとろし此糸あつふ鶴烟か 歡夫

書是此月や待ふへ鶴烟舟 一掌

鶴をいや流石よをを隠し義 老古

昼籠や穢よを延き、捨海月 一貫

親おしや片圓山の野松子 舌杏

紫陽花や望しつと濡し雨の夜 星衣

又し夏も蓑忌きし五月雨 老鳥

草鞋の名新もけり五月雨 下サ羽根川 正母

湖や翠月乃雨のにそつと を今所記 麥免

五月雨晴く二又乃物日の動 讀ホフク島 錦波

や〜〜れやふ新地をいそひ 全島田 菊二

白年月もや強く〜〜へ新白鳥 曲 眩

園の灯をよやあり久夏の名 長梧子

照射矢の羽色をそり村ふり 錦城子

空夏乃花散里や啼る鳥 小田原 如燕

土佐の画の夜く雪く照射 並列表 蓼子

蝶啼や本多は白ひの末六月 小田原 素兄

ぬうつあをたましく奈良乃麻子 武版社 階蘭

臨七日よりあしへあけり子 蓼子

虫千や娘は冬せし古名号 米簀

むしりや妹は同る袖の鱗 列紅

本城くみくもも数流の故 得魚

軽くや出散うへる流あり菊 巻を川 幾重

氷くぬを夏乃志りれ流氷 巻を川 聖人

西河のかくみも涼し苔清水 楚狂

苔志く山志のぬよさを数帯 巻を川 星夜

肥膳と女の夢は初つさが 完来

水を引きまきけ橋の暑くか 蓼助

髪癖を繕ひまゝくくる暑くか 尤席

瀬戸物の綿手多にありさか 我後 既明

更啼やかかき六月かこき 亀二

帷子やむし川の癖の懐き 月守

千代帝乃鬘斗と義一笹篠 雨靜

穉の塊をぬきまゝく長く 星衣

夏乃月よい名をわけて寐さる危 菅成

泡盛此後をまゝくり夏の月 一貫

夕多啼すわと吟してまゝみか 何や足

寺西や偏祖右肩の門すゝ を後 川雲

涼一十や何系殿の下を交 武川 三徑

雲の掌根より一社が 錦城子

ふまけみ祢鳴戸の上は扇を危 竹苞

夕立や糸一で朱紅油鳥 寺十五 南斗

美人秋夜多し市井人時あり 上ナ 司丸

新井の螢の曇乃高藤也 を夷家 貫至

月足花を我も空く不二指 星夜

新田の中より川あり平地也 寸口

暮るやおとよの躰乃終るる 采葉

涉後舟ありて君をうかへり 錦城子

秋乃終

噓しと五臓は秋の返りり 柳紫子

きぬくの風物秋を別母也 を後府内 金枝

あらくしと秋見くり天の川 下井小元 高山

柳枝や秋不戒乃先いなき 物我

あき秋なる西風の音や新九郎 久川 其桂

葛の根は白雪宵をくせむ 秋上壽 冠

魂柳やふる語も道し知つる 眉映

淋しき秋をくせむれ玉糸 岷山

石女乃中伏なり一矣由つる

管成

岩代乃松入くそふくの星

蓼化

鷗啼く田中此根草を危

曲肱

関中を問へん姚なり麻の声

得魚

麻の音を糸くもの織ふ女部

を新の歌 蓼主

去ちうく白鳥落る紅糸ふか

房新の歌 如翠

寄鏡一巻く舞ふ小女部外

後校 雪衣

日暮りくくくくくくく女部外

他者不知

詠蘆出さくくくくく白糸や紫花被雲子

世分くそ是より秋の月夜計

蓼河

寺の念ハ河やくくく人頂上の秋

小田原 素兒

産声ハ誰聴衣塚と虫の秋

玉宇

帰くくを夢見くくくむくくの声

君魚

虫の歌分く棹す小舟計

星辰

紅魚の粥を煮る僧は色もく不審子

葦乃端璃と琥珀の朝紫が柳絮子

胡蝶や一とんばよの母の夢廿五歌唐

白骨の切籠煙籠や夜の露 完来

灯籠や消るも照も人の如 白麻

新秋の寒やもよき燈籠が左枝雪舟

いさふの暮の友をれと燈籠が 星衣

まゝ雁の落りに沖も雪か 歡夫

陽もく川やいそん小夜籠 冠羅

是も又まゝ鳥の声をさよ砧 長悟子

各も持弓もめも鳥籠山子外 曲肱

秋の水月もやつる思ひあり 左枝雪道

秋乃暮にとも鳥居外 左枝古篤

牛吼るからと里あり秋の音 左列梅巴

秋の月三十二相撮ひたり

田中 歳月

負角カ砂うちをくく袖は

巻列 清風

物さしよ母や泣く人角カ

九老

舟見えく傾く海や妹の風

巴丈

能衣を脱く英く相撲に

砂月

妹風や白川越る花さるも

蓼涼

秋風や鳴きと越る汐の音

文流

妹の風捷蹄くくくれ柱外

白麻

鴉書や結吹よくま夜の湖

完来

虫賣く米賣ふ房乃命が

星夜

名月やかたて歌樂乃因雨 一路鳥

世にとる欠ぬ友之糸の月 得魚

四月や世をさるくへも誘ふ

栖蛙

かひく女桂男や暮ふ乃月

後府 湖月

浙江をかたて備あけ月を雪

雪 珊

名月や積ふほきるる今年葉 文流

明月や帆乃高きある藻川舟 全

名月や不二のちりて稲莖 全

明月や八幡の放川舟より 小田原 素見

名月や待たぬせもる三井の鐘 井行又木 旭峯

名月や待たぬせもる三井の鐘 楚狂

名月や待たぬせもる三井の鐘 他者家

名月や待たぬせもる三井の鐘 岷山

既空や月のほきるる 波久能 雁赤

名月や皆日の中乃日和山 蓼阿

名月や皆日の中乃日和山 全

名月や地を一本は白園扇 波岸 竹志

明月や皆連立の落し水 寿来

三井寺や今宵八月乃迎鐘 春橋

名月や洞高紋川菅門不 十才 竹志

名月や洞高紋川菅門不 星夜

新秋のうらみ 後府 杜口
夕暮を集く 九月晦日 木羽

冬 9 部

初対面 キキオラツ 射集

亭崎 唐列尊 水夜

雨吟

胸い 後八橋 此君

渚漕舟 夜 蘆岸

此以ハ寐 卵毛

涙 秋

茶吟 秋

盃 菊女

物我

少将よ多ふ夜もあはれ 神杵 上キカラシ 松 栴

石よ口替へくくめき少く難 舌 杏

常しく千鳥の渡り日の出は 星 辰

降埋る更子雲見ぬ廣うち 不 騫子

白妙乃偶田河系や雲の来に 沙 羅

冬に夜も百味をたむ密林味暗 月 守

白雲や雲れ奥を影落母叔 砂 月

清き道と花も友なりぬ仙花 何や足

おと見えくハカチ近る海嵐哉 星 夜

参し二由控る子あはれ冬背 吐 論

暁や曇り縹より雲子中 君 免

霜空し新てハ石も夜泣き 曲 肱

仏具屋の神あり月や夷隣 寸 口

風や風く火の海を巻岩山 下井橋本 都 本

炭二升白燬一筋をわたりて 雨吟

家もけよしと欲ぢい屋の雪 上ヶ今宿 南斗

泣きさりくそ冬れ月夜が 全世田 馬童

臘ハや納新ハ味噌の守一義 奥白川 林夫

ふふ事少とやうけぬ 硯石 欠川 阿郎

雪の夜や寝るれぬや 獨 砂月

櫛焚りし時季へ入ぬ大根煮 一貫

鴨もや氷よを煮 矢一筋 文流

七里を鯨の油なるれり 欠川 其枝

夜神楽や心で悦べし 上ヶ橋田 五柏

太くの友かきへり年志 志碩

裁餅や女よりた甚む 下ヶ橋本 都本

籠車乃子小舟とと出ま標拂 曲脛

たゆらさよ思ひ解流るるに 得兼

花免く心師もの雨をさぬが 星夜

新まかす月も漁るに 大世日 奥祖クラ 梅谷

四世雪中菴完来判

六印

ふふふの秀く白く秋乃自 普成

探荷春之部

品川よ思く名水の中へ利 不審子
初雪の父母とと富士筑波 旭夫
えりお町や日けくまを 得魚

雪水ぬ人のき路も水乃如 左阿

福あちの葉よこりゆかすあ 栖蛙

空も海も雪のふりて初雪 文流

け人か唯まの舟よあま道 氷衣

おほのりか時ゆきあま一ッ松 不審子

湯あまの底よ海魚のつら 不審子

ふふふはあちのあま子 吐芥

あまのちあまのあま乃 吐芥

面々く風を起し梅の谷 奥棚倉 梅谷

中(と)陣山川を流す 全 青由

おぼろも所を中陣山川 全白川 千隙

しきさしと新かき書あはれ 全 月見

山草のまま宝園の春の雨 曲眩

細きおろしゆく糸は結核料 得魚

新印のあはれ 全 星衣

雪の如く女乃あはれ 全 蘭女

まのほろろ 全 井の夜之花 全 普成

復々部

仙歌乃魚魚も破 全 曲眩

保あま 小田原 山花改 全 午心

新し又あはれ 全 御和魚

七尺の屏風も 全 松露

吸いの物 全 来賀

まう 全 得魚

夕暮の風 房州 完山

魚交

亀曳

一鳳

月丸

全

露澄 上徳原

虎城子

荷江

得魚

玉宇

都本 下徳原

秋之部

福つるお七目のおと生事錦城子

磯くの形秋も柳さう人房州本折瑞石

初丁や又多ふよの梅の念

芦の外層もは糸結遠州加茂夕波

鷹鳴や山乃更も天の川全森菊平

しづもや又さるる名乃業小田原長兄

晴雨やまはく民の夕烟 蓼山

還るお花路あまのよはの事 全

去る浪尺天を打り秋の風 一鷺

燈籠や昼の柱おの誠し上総横田五柏

燈るせの光さるる浪岡寺房州阿童

遠お入中成断し秋の水 月丸

魂お十町の住居乃海音る 全

人を心ち願き鳩や秋の音 沙羅

七堂乃廟遠くはる業は 月丸

松書や峰鳴して流乃自
 苔解く杖撰井の林うぬ
 御衣してハ小弁額の燈ハ
 落館やのふくくハ紫の楫
 志く女大社もえゆる坂の海
 披雲子
 雨も皆下乃田井の半指也
 石より雲の影ハくハ老翁力
 流もくハ水もくハ麻の声
 金臺

噴り地ををねくは法の高
 音橋
 志解くハ湖なく舞落る丁
 駿府
 梧泉
 舞よ眼を喜くハ地中丸
 全
 錦波
 一山の氷流るハて紅葉も
 駿府
 普成
 き乃ぬよりハの父や故の鳥
 全
 泉布
 妹風の影もくハ井流乃雲
 全
 雁赤
 幸田よ吹あくる雪も分ハ
 上徳町田
 起石
 因西の書もくハ人秋ハ橋
 小田原
 橋水

将者并多記書也落遠州主

菊小菊合々也又花人 京花

橋板江之水落小田原 亀六

古きあかしを筑波乃筑波 貫嵐

雁鳴也是も筑波夜の物筑波 梧泉

新月や人小中山乃四方乃

多崎や秋乃安哉松小月久保 詩三

日向也登々おと小押小田原 曉長

瀧殿の中秋新也后乃月 午心

以秋も落毛系乃落乃孔 不塞子

父之部

月心乃江落々乃時乃松 京花

松乃枝乃も乃崎乃乃乃乃 普成

お新也也君心入乃山 竹苞

外乃我系乃落乃乃乃乃 器文

風やまこくこく西の人多く此声

房州

可笑

あつし入指を割るる我

全

柏庭

目を赤くし後よ眼もなき海流

沙羅

鉄線の間や梅う枝もすま

全

志多此州くく今をの形

巧也

本柱や節うぬまいつく海

淵對

志多此州くく今をの形

藤沢

文隣

うさ戸や人目尻をひきまら

奥桐倉

梅溪

まゆか活くも形くす神

志碩

水多やまゆか多くと流も形

仙斧

まゆか多くと流も形

嗽石

冬乃月海るれ八日此ぬこ

藤沢

文隣

くま秋も供くくさく入翠二つ

文里

あふく海り流く神て海流計

起翠

幻の神流くまゆか多くと流も形

普成

綱代木より石を索くもおの 奥白川 蘭秀

うら海をたれもし 金川 松と松 雪武

燈乃くまれよ靴くまおぬ 錦城子

葱の香ふ化を八教気 全

月澄く地は潮よなる 文流

鏡は影あり 全

きく高の結もけ 得魚

暁の天よりさ 金川 河まぬ 雪つら

母ありし 伊勢津 空を 湖月

夕風乃人よす 午心

空を 小田原 於水

あそび 星夜

なま 曲肱





